

## 2022年3月期第1四半期 決算説明会 Q&Aサマリー

**Q1:** 通信計測事業の1Q受注実績をどう評価しているか？2Q以降の見込みは？

5Gの開発需要とデータセンターのネットワーク高速化の需要を獲得し、計画通りの受注高となり

**A1:** ました。2Q以降については、特に米国のCバンドの基地局敷設による需要回復に期待しています。

**Q2:** 米国で基地局用のフィールド保守用測定器の需要が見込まれるとのことだが、海外出張が難しい現状において、どのような対応を考えているか説明してほしい。

基地局用のフィールド保守用のハンドヘルド測定器が主要製品となりますが、これらは米国の子会社にてビジネスが完結しているため、新型コロナウイルスによる移動制限の影響は少ないと考えています。

**Q3:** 半導体不足が1Qの売上に影響したとのことだが、半導体不足が生じなければ、売上は計画通りになったのか？また、2Q以降も半導体不足の状態は続くと考えているのか？

半導体不足の状況がなければ、ほぼ計画通りの売上と言えます。

**A3:** 半導体不足の今後の状況についてはリスクの一つとして捉え、代替部品への変更や設計変更などの施策を講じています。

**Q4:** 5Gの通信計測事業のビジネスサイクルにおける位置づけを変えないとのことだが、その理由は？

5G計測市場が2023年-2024年のピークに向けて成長するという想定は変えていません。5G加入者数は今後大きく増加することが期待でき、基地局の設置や新しい5G端末の開発は継続すると考えています。さらに新しい3GPP規格も出ることから、2023年-2024年までは堅調に進んでいくと見込んでいます。

**Q5:** PQAの受注・売上が1Qで回復したようだが、2Q以降も継続するのか？

1Qの受注・売上は新型コロナウイルス感染症の状況が改善している地域で回復しており、国内・海外ともに品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資は堅調です。

**A5:** ただし、新型コロナウイルス感染再拡大により、再び顧客が投資に慎重になるリスクに留意する必要があると考えています。